

## 第2回多賀城市子ども・子育て会議録(要約版)

□日 時 平成25年10月8日(月) 13時30分から

□場 所 3階 第1委員会室

□出席者

委員：増子正会長、磯部裕子副会長、根來宣昭委員、鎌田俊昭委員、川崎秀和委員、中鉢義徳委員、菊地智恵子委員、黒川恵子委員、相澤日出夫委員、小柳明子委員、山本宣恵委員、服部典子委員、大滝淳委員、伊藤光子委員

事務局：鈴木保健福祉部長、但木こども福祉課長、沖井志引保育所長、塚野子育てサポートセンター所長、佐藤こども福祉課長補佐、伊藤こども福祉課主幹、徳永こども福祉課主幹、小林こども福祉課副主幹、(株)ぎょうせい

欠席委員：河野優子委員

□次 第

1 あいさつ

2 議事

(1) 次世代育成支援行動計画の実施状況報告

(2) 多賀城市子ども・子育て支援事業計画等に係るニーズ調査票の検討

(3) 子ども・子育て支援に関する現状と課題

3 その他

---

### 1 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日も議事が、また資料も盛りだくさんでございまして、大体2時間ぐらいを目途に皆さんからご意見をいただければと思います。

委員の皆さんからは、いろいろ子育て支援に関する現状と課題について非常に多くのご意見をいただいております、ありがとうございます。

私、先ほど朝1時間目に、ちょうどほかの大学で授業に行ってきたして、そのの学生に少子化についてお話を聞いてみました。学生は75人で男女の比率は半々でした。今日の資

料の中学生を対象にしたアンケートの中に、「あなたは、将来、子どもを欲しいですか。」と聞いていますが、同じことを学生に聞いたところ、大体半分が手を挙げました。

「少子化だよね。何で少子化なんだと思う？」と聞いてみると、一番最初に答えたのが、「お金がかかる。」それから「仕事を続けられなくなるんじゃないか。」「自分のやりたいことができなくなっちゃう。」「高齢出産」とか、いわゆる少子化の要因の模範解答をぱっとするんですね。全員正解、全部正解です。

そこでちょっと思ったのは、例えばマスコミ報道などもそうなんですけれども、少子化ということを伝えるときに、ネガティブな部分だけがすごく報道されてしまい、若者の間にどうも「子育て＝（イコール）楽しい」というイメージを持たれてないということを改めて思いました。「子育ては大変だ。だから、将来どうなるかわからないので子どもを持つことはどうか」という答えになるのかなということを今日実感してきたところでした。

いろいろ子育て支援に関する施策とか制度がありますけれども、プラス、私が今日感じたのは、「子育てってすごく楽しいよ。子育てすると人とのつながりができたり、いいこともたくさんあるんだよ。」というような情報提供のあり方もちょっと変えていく必要があるのかなと、今日学生たちとお話をして感じたことでございます。

すみません、話が長くなりました。今日も、また皆さんからご意見、またご議論いただきながら進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 2 議事

### (1) 次世代育成支援行動計画の実施状況報告

#### 資料1に基づき事務局が説明

#### 【質疑・意見交換】

○会長 ありがとうございます。事務局から説明がありました。

委員の皆様からご質問やご意見があれば、いただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 待機児童が一番の問題だと思っています。通常保育がB判定になっていますが、この待機児童数は4月1日ですか。

○事務局 そうです。4月1日です。

○委員 4月1日、そしてこれは新定義の数値ですか。この数値も新定義だと少なくなります。新定義で出した数値と、窓口で聞く待機児童では数字が全然違います。

- 事務局 皆様にお知らせしている待機児童の数は、全て実数です。
- 委員 新定義ではないんですね。
- 事務局 国の定義ですと四十何人とか、そういうレベルになります。
- 委員 わかりました。
- 事務局 前回差し上げた資料の数字も実数ということでご理解いただきたいと思います。
- 委員 わかりました。
- 事務局 参考までに、これはあくまでも平成23年度と平成24年度の比較になります。その下の段を見ていただくと、例えば平成23年度から平成24年度にかけて、はるかぜ保育園さんとすみれ保育園さんの2カ所が開設しているので、待機児童が平成24年度は減っているわけです。平成25年度になるとまた増えていますが、現在進行形だから今は評価できません。平成24年度の実績としてはこういう評価になるということをご理解いただければと思います。
- 委員 わかりました。
- 会長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。
- 委員 「たがじょうすくっぴープラン」資料1の2の平成26年度の目標値は、いつ設定していますか。平成24年度の実績値がこの目標値を上回っているということは、この平成26年度の目標値はその前に立てられていて、これからまた変動するということですか。平成26年度のすくっぴープランを作ったときの目標を現在超える数、例えば認可保育所の児童人数が入所しているということですね。
- 事務局 当時設定した計画値が我々の予想を超えて現状に至っています。平成26年度の目標値を達成すれば、本当にそういう課題が全部解決されているかという、そうでは決していないだろうと私たちも思っています。平成25年度には待機児童がまた増えてきているという実態もあります。後でアンケート調査の内容を皆さんに見ていただきますが、そういう内容で将来、5年後なり10年後を予測できるかどうかということが、多分一番大事な視点だと思っています。今の現段階としては、その目標値自体がもう既に過去のものになりつつあるということをご理解いただければと思います。
- 会長 そのほかいかがでしょうか。
- 委員 49から53までの関連ですが、相談件数が減っています。学校としても全くそのとおりで感じています。52番の平成22年度から平成24年度までの相談回数がぐんと増えていきます。これはスクールソーシャルワーカーの先生の相談件数とほぼかぶるような状態です。スクールソーシャルワーカーの先生が一人のため、もう対応がいっぱいいっぱいという状

態のうえ、いまだに相談件数が増えているという現状で、今後これについても、市として何らかの対応を考えていただきたいという感想と要望です。

○会長 事務局に解答をお願いしてもよろしいでしょうか。

○事務局 この場に教育委員会の職員はいないのであまり詳細な説明はできませんが、今9月議会において、できるだけ対応頂けるようにするため補正予算を組んでいます。相談件数が増えてきている点については、教育委員会と十分調整を図りながら、できるだけ手当てしていきたいというように考えています。

## (2) 多賀城市子ども・子育て支援事業計画等に係るニーズ調査票案の検討

### 資料2から資料8に基づき事務局が説明

○会長 ありがとうございます。ただいま事務局のほうから、子育て支援事業計画等に係るニーズ調査の質問用紙のことについて説明がありました。設問はこれから変えられるということですね。

○事務局 そういうことでございます。

○会長 そういったご要望とかございましたら頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○委員 次世代を担う中学生にアンケートをとるということは非常にいいことだなと思います。

○会長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○委員 就学前のアンケートの結果を出したときにも、退職をして無職の主婦と、就職中の女性との比較をグラフで表したほうが育児不安についてよくわかると思うので、調べてもらったらいいかと思います。

○事務局 クロス集計して、いろいろデータ分析します。

○会長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○委員 私は小学校の教師ですが、子どもからアンケートをとる際に、例えば「勉強についてどう思いますか」という設問に対し、解答を「好きです」「好きじゃない」「嫌い」とした場合、「嫌い」という項目を入れた段階で、普段そんなに「嫌い」と思っていない子どもが、そこで○をつけたことによって「嫌いだ」と思い込むということもあるので、その辺を配慮しています。そう考えたときに、中学生の中で、例えば14番の「あなたは家族と一緒にいて楽しいと感じていますか」という質問に対し、「嫌なときが多い」という解答はどうでしょうか。子どもは意外とアンケートを書く直前の生活体験がすごく反映すると

思うんです。その辺を気をつけないと、本当にこのアンケートで知りたい内容がつかめるかどうかちょっと心配だと思いました。

○事務局 わかりました。今の件に関しましては、教育委員会学校教育課とは協議したのですが、中学校の校長会なり先生方の現場のほうとはまだ協議していません。現場の意見も聞きながら、ちょっと設問の中身を点検してみたいと思います。

○会長 ありがとうございます。ご配慮ください。そのほかいかがでしょうか。

○委員 就学前のアンケートで、1,700人をどう無作為に選ぶのかをまず教えて下さい。

○事務局 これは、統計学的に大体ルールが決まっております。住民票に記載されている0歳から5歳児までを生年月日順に一度並べます。2分の1だと一人置きに対象者になっていくというふうな考え方です。統計学上、それで抽出するやり方が無作為抽出であるため、出てきた数字については、結構信憑性があるというふうに考えられています。

○委員 6ページの問13について、「お子さんの成長、発達を伸ばすためにどのような支援が必要だと思いますか」というところで選択肢が7番まであります。健診のときに「集団の場で育ったほうがいいですよ」と勧められて集団に来るケースがほとんどです。「集団で育つ場」を入れていただいたほうがいいと思います。

○事務局 1つの項目出しということによろしいですか。

○委員 はい。それから、最後の言葉の説明について、認定こども園というのは、私たち経験したことがない施設なので、イメージが湧きにくいと思います。ここでは直接契約になるということはすごく大事な点なので、入れたほうがいいと思います。

○会長 ありがとうございます。事務局、今の認定こども園の説明ですか、これについてはいかがでしょうか。

○事務局 直接契約というのも大事な要件の1つだとすれば、その項目も付け足してもいいのかなと思いますので、参考とさせていただきます。

○会長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○委員 未就学のアンケートの方法はどのような形でやるのですか。

○事務局 これは郵送です。

○委員 無作為で市が選んで、郵送で送るということですか。

○事務局 はい、そうです。

○委員 もし、アンケートに協力したいという方がいた場合はどうですか。

○事務局 これも統計学上のお話になりますが、ある特定の集団が特定の目的でアンケートを

書かれると、結果として偏りが生じてしまうということになります。したがって、無作為抽出の良さというのは、いろいろな考えのいろいろな人がそこに同じような意見として出てくるから最終的なパーセンテージを掛けていくと、これぐらいの数字になるということで信憑性があるのです。これがある集団、母体、そのものがある特定の目的で設置されていたりして、その方々が一斉に出すと、結果として出てきた集計、統計資料に偏りが生じてしまうということがあるので、無作為抽出というような形になっています。

○委員 今、私が話したのは、ある団体とかではなく、質問項目の量が結構あるので、そんなに意識をしていない方にたまたま届いた場合、アンケートに協力しないで終わってしまったり、例えば、子育てにいろいろ思いがある方のところに届かない可能性もあるのではないかなと思いました。結果的に、市民の方にしてみれば、知らないところで決まっちゃったとか、ニーズが拾いきれない結果になってしまうのかなと思ったので、お聞きしました。

○会長 よろしいですか。ありがとうございます。

○委員 ぜひ市に伝えてほしいことがあるとか、私も意見したいというお母さんが結構います。そういう意見があるお母さんって、結構子どもの数が多いんです。そういうお母さんたちがホームページなどで意見を言える機会とか、子育て支援の会議に物申すじゃないですけども、自分の思いを発信する機会があるといいなということをお話しいただきました。

○事務局 それは未就学児ということでよろしいですか。

○委員 はい。未就学児のアンケート資料3です。5ページの11番「お子さんの成長、発達で心配なことはありますか」について、「ある」と答えた場合に、幾つか項目があって、あるもの全てに○してくださいとありますが、相談をしているものと相談していないものがあると思います。ここはちょっとアンケートとしてわかりづらいかと思います。

あと、問14の「市の子ども・子育て支援の取組みについて」は、ちょっとイメージしづらいと思います。自分の思いを書く欄があると、その人の意図していることがもっと分かりやすく把握出来ると思います。

また、問16は児童虐待についての話なので、そのときの親の気持ちとか状況などを少し書く欄があるといいと思います。

12ページの間23-1について、「教育・保育の事業はどこで利用したいですか」は1ヶ所ではなく、複数回答ができないかなと思いました。

○事務局 まず1点目の、いろいろな方からの意見ということで、中間報告的な計画書が出来た時点でインターネットを通じてパブリックコメントをとるという手法が、最近の計画書

をつくるときの主流になっています。決して無作為抽出で2人に1人アンケートとったから、ほかの意見は聞きませんということではなくて、パブリックコメントでの意見のとり方というのはさせていただきたいと思っています。

問11の2つ目について、障害に限って言えば、何度も何度もアンケートをとられると、市民の方々も面倒くさいと思われる方もいるので、この程度の設問にさせていただいたというところがございます。

6 ページの間14ですが、自由記述のコメント欄を設けるよう検討します。

7 ページですが、その他の自由記述欄のところを増やすことで、その方の思いを酌み取っていくということで解決できるかなと思っています。

12ページの5問目ですが、我々が回答結果をどのように分析したいのかというふうなことも含めて、複数回答がいいのか、1個だけの回答がいいのかというのは、これは検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○委員 12ページの教育・保育の事業の意味についても一度説明をお願いします。

○事務局 今回の調査は多賀城市の子どもたちに対する設問ですが、幼稚園だと仙台市に通っている場合もありますので、その希望を確認するという意味で設問を設けています。

○委員 幼稚園ですか。保育所利用者も含めてということですか。

○事務局 保育所は、「多賀城に住んでいる子どもは、多賀城市内の保育所で預かる」というのが原則です。

○事務局 幼稚園と保育所ではそもそも目的が違います。だから無認可保育所がある。教育と保育を分けて回答してもらったほうが、おのずと必要量の違いというのが出るでしょう。ここでは保育も教育も一括して聞いているので、幼稚園と保育所では別々に回答を導き出したほうがより具体的な話ができると思います。

○委員 保育所利用者の親御さんは、このアンケートによって、ほかの市町村も利用できるようになるのかなと勘違いされる恐れがあると思います。塩竈市などでは委託していますよ。そういうことを考えているのかなと思いました。

○事務局 その辺については設問に注釈をつけるとか、何か誤解のないような設問にしたいと思います。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

○委員 小学生向けのアンケート、資料4の4ページの間12の「お子さんの成長や発達のこと

で病院や専門機関に相談したことはありますか」という問いですが、このアンケートであれば、「学校の先生」から指摘されたという選択肢がないので、相談していなければ「ない」というようになってしまいます。学校の先生から発達障害ではないかという指摘を受けて、検査を受けたというお子さんが多いので、そこが落とされてしまうと思います。どこに行けばいいかというのもすごくわからない状態なので、その辺のお母さんの気持ちを組めるような自由欄というか、書き込み欄があってもいいのかなと思います。

○事務局 ありがとうございます。これは小学生に聞いているので、「先生」を選択肢に加えます。

○会長 事務局のほうにちょっとお尋ねしたいのですけれども、今、いろいろ意見が出されましたが、多分、まだ出尽くしていないと思います。今日は時間の関係もありますが、何日か猶予をいただけるのであれば、これ以降は、直接それぞれの委員から事務局に意見を出していただいて、それを事務局のほうで検討していただくということもありかなと思います。そういった期間的な余裕があるのかどうか、ちょっとお尋ねします。

○事務局 大変お時間がないところで申しわけありませんが、今週いっぱいぐらいに直接おいでいただいて口頭でお話しいただくか、メモで構いませんので、連絡いただきたいと思います。もし、委員の皆様が今日考えてきていただいたのであれば、今日この会議が終わった後に、この場で個別にお話しいただいても構いません。

○会長 それでは今日の会議が終わってからの時間と、それから今週いっぱい、なるべく直接おいでいただきくようお願いいたします。

○委員 本当に子どもを育てるための時間を十分にとっていくように、子どもの将来をしっかりとしたものにしてあげたいと思っています。報酬は必要ないので、会議の回数を1回でも2回でも重ねてほしいと思います。

○事務局 会議は報酬の有無ではなく、必要に応じて開催させていただきたいと考えています。

○会長 ありがとうございます。それでは2番目の議事については、一旦ここで打ち切らせていただきます。

次に3番目で「子ども・子育て支援に関する現状と課題」要約版について、事務局からお願いします。

### (3) 子ども・子育て支援に関する現状と課題

#### 資料9に基づき事務局が説明

○会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から、「子ども・子育て支援に関する現状と課題」の要約版について説明をしていただきました。委員の皆さんから、何かご意見とかございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。委員の皆様から出していただいた現状と課題をまとめたという形ですので、これはよろしいですか。それでは、議事はこの3点で以上でございます。

次に「その他」として、事務局のほうから、次回の会議の開催予定、それから次回のテーマについて連絡があります。事務局、お願いします。

### 3 その他 事務局から連絡

#### (1) 次回の会議の開催予定について

今回は2月上旬ごろを目途に開催を予定しています。議題としましては、今年いっぱいを目途に、ニーズ調査の集計、単純集計をとりまとめる予定ですので、その結果報告と、あわせて、教育・保育、子育て支援事業量の見込みの把握までできれば、資料などもご提示させていただきたいと考えています。

#### (2) 意見交換会について

11月、12月にかけて、認可外保育所及び幼稚園との意見交換会を実施したいと考えております。市の検討委員会職員と意見交換会に臨み、その中で出たいろいろな議題や意見をまとめまして、次回の会議で説明させていただきます。

### 4 閉会挨拶 磯部副会長

本日は皆様方、本当に長時間にわたりまして、ご審議いただきましてありがとうございます。いよいよニーズ調査が始まるということで、多賀城市独自の視点を盛り込んだ貴重なアンケートができ上がりつつあるのかなと思います。今日のご意見いただいたことや、これからもう少し宿題をさせていただく時間を頂戴したので、意見を出せる場合には寄せながら、まずはニーズを調査するというところから出発すると思いますので、いいアンケートができればいいなと思っています。しかし、ちょっと時間がありません。もっと丁寧な審議をというご意見もありましたが、国も少々乱暴な要望をしてまいりました。先ほどお話がありましたが、このアンケートの結果を12月に報告しなければならないということです。実は多賀城市さんだけではなく、全国の市町村、みんなひいひい言っている状況でございます。もしかしら、100%のアンケートはできないままにニーズ調査に入ってしまうかもしれませんが、

あとから知りたい情報が出てきた場合は、クロス集計を上手にやることで、アンケートの不十分だったところをカバーすることも、やりようによってはできるのではないかと思います。分析結果を私たちはもう一度拝見しながら、またみんなで知恵を出して、より正確な分析と、その後の施策につなげていけたらいいなと思っています。どうぞまた、皆様から貴重なご意見とご協力を頂戴できればと思います。

本日は長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございます。これをもって本日の第2回多賀城市子ども・子育て会議を終了させていただきます。ご苦労さまでした。